

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

インド、インフレ率低下で追加利下げに期待 (Asia Weekly (4/15~4/19))

~フィリピンの移民送金に頭打ちの兆候、消費の下押しに繋がる懸念~

発表日: 2013年4月19日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/15 (月)	(中国) 1-3 月期実質 GDP (前年比)	+7.7%	+8.0%	+7.8%
	3 月鉱工業生産 (前年比)	+8.9%	+10.1%	-
	3 月小売売上高 (前年比)	+12.6%	+12.6%	-
	1-3 月固定資産投資 (前年比)	+20.9%	+21.3%	+21.2%
	(シンガポール) 2 月小売売上高 (前年比)	▲2.7%	▲3.5%	▲2.0%
	(フィリピン) 2 月海外送金 (前年比)	+6.0%	+7.4%	+8.0%
	(インド) 3 月卸売物価 (前年比)	+5.96%	+6.27%	+6.84%
4/17 (水)	(ニュージーランド) 1-3 月消費者物価 (前年比)	+0.9%	+0.9%	+0.9%
	(シンガポール) 3 月非石油輸出 (前年比)	▲4.8%	▲5.4%	▲30.6%
	(マレーシア) 3 月消費者物価 (前年比)	+1.6%	+1.6%	+1.5%
4/18 (木)	(インド) 3 月輸出 (前年比)	+7.0%	-	+2.6%
	3 月輸入 (前年比)	▲2.9%	-	+4.2%
	(香港) 3 月失業率 (季調済)	3.5%	3.4%	3.4%

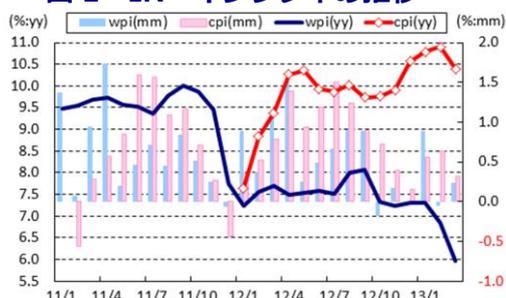
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[インド] ~インフレ率の低下は、景気の不透明感が煽る中で追加金融緩和余地の拡大が期待される~

15日に発表された3月の卸売物価は前年同月比+5.96%となり、前月(同+6.84%)から減速して40ヶ月ぶりに6%を下回る水準に低下した。前月比は+0.24%と前月(同▲0.06%)から上昇に転じているものの、食料品価格は落ち着いているほか、エネルギー価格の上昇ペースも鈍化しており、必需品を中心に物価は落ち着いている。鉱物資源を中心に物価上昇圧力は高まったものの、コア物価は低下基調が続いており、一部の財を除いて物価上昇圧力は後退している。3月の消費者物価は前年同月比+10.39%と、依然として桁%の高い伸びが続いているものの、ようやく頭打ちの兆しが窺える中、卸売物価の落ち着きは先行きにおいて消費者物価の低下に繋がると見込まれる。インド経済を巡っては景気の不透明感が残る中、準備銀にとっては5月に予定される金融政策委員会において、追加的な利下げ余地の拡大に繋がると期待される。

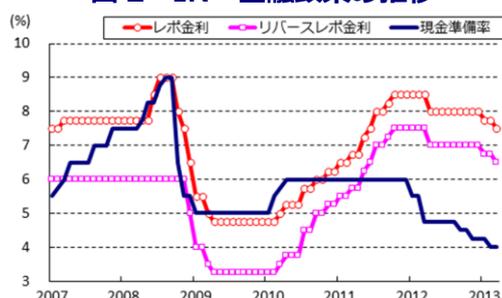
18日に発表された3月の輸出額は前年同月比+7.0%となり、前月(同+2.6%)から加速した。単月ベースの輸出額は過去最高となっており、世界経済を巡る不透明感が残るものの、同国の主要な輸出先である中東やアフリカの景気は底堅く推移しているほか、アジア新興国向けの拡大により低迷が続いてきた外需に底入れの動きが出ている。一方の輸入額は前年同月比▲2.9%となり、前月(同+4.2%)から減速して7ヶ月ぶりに前年を下回った。前月比も減少しており、足下の景気の弱さに加えて、原油価格が調整していることも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は▲103.15億ドルと前月(▲149.22億ドル)から赤字幅が縮小している。

図1 IN インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 IN 金融政策の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 IN 貿易動向の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【フィリピン】 ～移民送金に頭打ちの動きが出る中、ペソ高による目減りも消費の足かせになる懸念～

15日に発表された2月の海外送金は前年同月比+6.0%となり、前月(同+8.0%)から減速した。当研究所が試算した季節調整値ベースの前月比も減少しており、米国からの流入は依然堅調に推移しているものの、原油価格の調整など世界経済を巡る不透明感が中東からの流入額の足かせになっており、欧州からの流入の縮小も下押し圧力になっている。足下では海外資金の流入によるペソ高圧力の高まりを受けて、ペソ建ベースの流入額に下押し圧力が掛かっており、個人消費の足かせになることが懸念される。

図4 PH 海外送金の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 PH ペソ相場(対米ドル)の推移

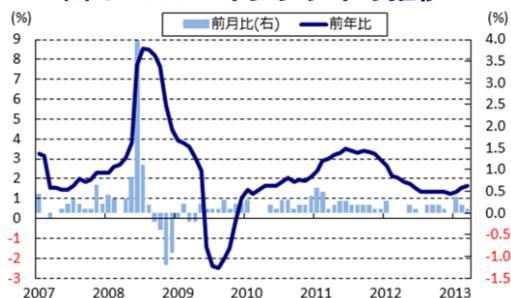


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

【マレーシア】 ～足下の景気の不透明感に加えて、商品市況の調整も重なり物価上昇圧力は後退～

17日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前月(同+1.6%)から加速した。ただし、前月比は+0.09%と前月(同+0.19%)から上昇ペースが鈍化しており、食料品価格のほか、原油価格の調整を反映してエネルギー価格の上昇も抑えられるなど、必需品を中心に物価が落ち着いていることが影響している。足下における景気の不透明感を反映して、消費財は全般的に物価が下落しているほか、サービス物価も上昇ペースが鈍化しており、物価上昇圧力は一段と後退している。国際金融市場の落ち着きを受けて外国人投資家のリスク許容度は改善しているにも拘らず、5月に予定される総選挙の結果の不透明さを背景に資金流入圧力は弱まり、通貨リングの対米ドル為替レートは下落しているものの、商品市況の調整により輸入物価の上昇が抑えられていることも物価安定に繋がっている。

図6 MY インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 MY リンギ相場(対米ドル)の推移

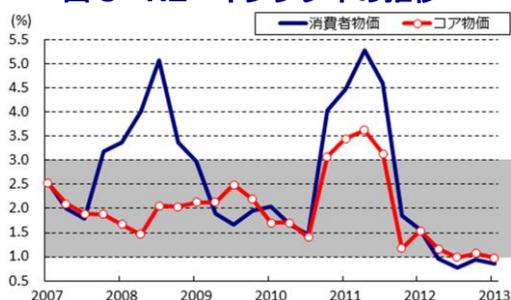


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド] ~インフレ率は依然目標の下限付近に留まる中、現行の金融緩和の継続を予想~

17日に発表された1-3月の消費者物価は前年同期比+0.9%となり、前期と同じ伸びであった。ただし、前期比は+0.43%と前期(同▲0.17%)から上昇に転じており、食料品やエネルギーといった必需品を中心に価格が上昇に転じたほか、カンタベリー地震からの復興に伴う需要拡大を反映して消費財全般で物価上昇圧力が高まったことが影響している。他方、食料品やエネルギーを除いたコア物価は前年同期比+1.0%と前期(同+1.1%)から減速したものの、前期比は+0.35%と前期(同+0.27%)からわずかに加速している。しかしながら、サービス物価は低下しており、景気は比較的堅調であるにも拘らず足下の通貨NZドル高が物価上昇圧力を後退させている可能性がある。このところ準備銀(中銀)は、復興需要の拡大による不動産価格の上昇を懸念して金融引き締めの可能性を示唆する動きをみせている一方、急激なNZドル高をけん制する姿勢もみせており、当面は現行の政策金利を据え置く可能性は高いと予想される。

図8 NZ インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 NZ 住宅販売戸数と住宅価格の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ~個人消費に底堅さが窺える一方、外需を巡る状況は依然として厳しい展開が続く~

15日に発表された2月の小売売上高は前年同月比▲2.7%と5ヶ月連続で前年を下回り、前月(同▲2.0%)からマイナス幅も拡大した。なお、前月比は+3.6%と前月(同▲1.2%)から4ヶ月ぶりに増加に転じている。同国では小売売上高に占める自動車売上高の割合が高く、この動向が全体を大きく左右する傾向がある。2月の自動車売上高は前月比▲12.3%となり、保有許可証(COE)価格の高騰などの影響により4ヶ月連続で減少したものの、自動車を除いた小売売上高は前月比+7.8%と5ヶ月ぶりに増加に転じており、日用品のみならず、宝飾品などの高額商品など裾野広く需要が拡大している。足下の雇用を取り巻く状況は依然底堅く推移する中、国際金融市場の落ち着きも個人消費の追い風に繋がっているものと予想される。

17日に発表された3月の非石油輸出は前年同月比▲4.8%と2ヶ月連続で前年を下回ったものの、前月(同▲30.6%)からマイナス幅は縮小した。前月比は+8.0%と前月(同▲2.4%)から4ヶ月ぶりに増加に転じており、足下では中国をはじめとするアジア経済の不透明感は燻るものの、通貨SGドル高の一面は輸出の追い風になっている。石油関連を含む総輸出額は前年同月比▲7.6%となり、前月(同▲19.6%)に続いて前年を下回ったものの、マイナス幅は縮小している。しかし、石油関連の輸出が前月比で大幅に減少したことから、

総輸出額は前月比▲3.2%と前月（同+4.9%）から3ヶ月ぶりに減少に転じている。一方の輸入額も前年同月比▲13.4%と前月（同▲14.7%）に続いて前年を下回ったものの、マイナス幅は縮小している。しかしながら、原油をはじめとする商品市況の調整なども影響して、前月比は▲5.0%と前月（同▲3.0%）に続いて減少しており、減少幅は拡大している。結果、貿易収支は+46.31億SGドルと前月（+24.60億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図10 SG 小売上高の推移

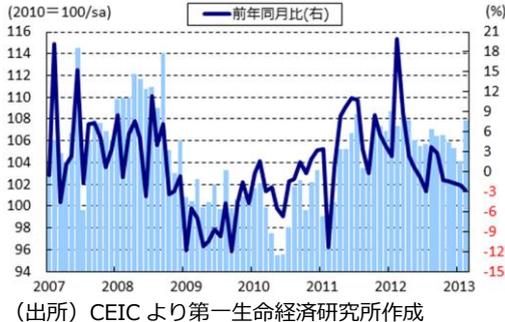
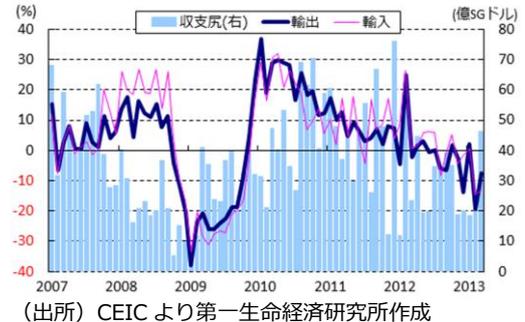


図11 SG 貿易動向の推移



[香港] ～金融市場の落ち着きによる好影響が期待される一方、隣国中国の不透明感は雇用の重石に～

18日に発表された3月の失業率は3.5%となり、前月（3.4%）から0.1p悪化した。就業者数は前年同月比+7.1万人と前月（同+6.3万人）に比べて拡大ペースは加速しているにも拘らず、失業者数も同+0.8万人と前月（同+0.4万人）に比べて拡大ペースが加速していることが失業率の悪化に繋がった。先進国による量的・質的な金融緩和の結果、国際金融市場を巡る状況は一時に比べて改善しているものの、隣国中国経済の不透明感は雇用改善の重石になっている。

図12 HK 雇用環境の推移



以上